

「選択と集中」の視点に立った投資の重点化や、地域の可能性・資源を最大限に生かした知恵と工夫による地域振興の推進が求められていることから、次に掲げる対象事業に該当し、かつ、複合的目的を有し事業効果・波及効果が高い事業、将来的な展望が明確で地域に根付く事業を優先的に採択する。

1 地域重点プロジェクトの推進

平成24年度をもって終了した「十勝連携地域政策展開方針」（平成20年10月策定）に引き続き新たに平成25年度からスタートした同方針における地域重点プロジェクトの着実な推進を図るため、以下の項目に該当する事業について優先的に支援していく。

（1）「食の拠点」とかちプロジェクト

十勝の農業・水産業は、安全・安心で良質な食の安定供給などを通して国民の暮らしを支えるとともに、食品加工や観光などの幅広い産業と結び付き、地域の基幹産業として極めて重要な役割を担っている。

しかし、今後、WTO（世界貿易機関）やEPA（経済連携協定）における国際交渉の進展をはじめ、世界的にFTA（自由貿易協定）やEPAなどの取組が進められている中で、農畜水産物等の適切な国境措置を確保しながら、地域経済の持続的な発展を図っていくためには、農畜水産物や加工食品の付加価値を上げていくことが極めて重要な課題となっている。

こうしたことから、農業産出額が全道の4分の1を占めるなど、北海道はもとより我が国における食料供給基地としての地位を確立している十勝の優位性を生かし、「食」の安全・安心に対する消費者のニーズにこたえた高品質な農畜水産物の生産を基本としながら、日本で唯一「食」の国際戦略総合特区である「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区」の指定という絶好の機会を生かし、農業者と加工・流通業者等の連携による生産から加工、販売までの一貫した取組、農畜産物の付加価値を向上させ、産学官金連携による機能性食品素材の開発を進める取組、鮮度保持対策や魚食普及の取組などを通じた水産物の消費の拡大を促進する取組、個性豊かで自立した十勝農業・水産業及び農村・漁村の発展をめざす取組、さらに、海外も視野に入れた販路拡大を進めることにより、国際競争に打ち克つ、強いブランド力をもった食産業の構築に資する取組を支援していく。

（2）「観光ネットワーク」とかちプロジェクト

十勝圏には、毎年約900万人の観光客が訪れているが、その多くが「日帰り型」・「通過型」・「夏期集中型」の観光スタイルとなっていることから、平成23年度に、とかち帯広空港と羽田空港を結ぶ航路がダブルトラック化されたことや、道央圏と十勝が北海道横断自動車道により直結した効果などが最大限に発揮されるよう、十勝の魅力である「食」を生かし、広域分散型といわれる観光資源のネットワーク化を進めることで、四季を通じて十勝でくつろいでいただける観光の仕組みづくりが求められている。

このため、旅行形態の多様化や旅行者のニーズに対応できるよう、農林水産業と観光産業との連携を図り、食料王国十勝の安全・安心な「食」を核として、地域に点在する自然景観・北海道遺産・ファームインなどを利用したグリーン・ツーリズム・温泉・アウトドアフィールドといった観光資源を組み合わせた滞在周遊型観光地づくりを進めるとともに、ホスピタリティの向上を進めながら、十勝の魅力を積極的に売り込むことに資する取組を支援していく。

（3）「環境フロンティア」とかちプロジェクト

十勝圏は、多様な地形や四季の変化に富んだ豊かな大自然を有し、こうした自然環境は、私たちの生活に安らぎと潤いを与え、十勝の発展の基礎ともなっている。

しかし、大量生産・大量消費・大量廃棄型という社会経済活動の拡大や生活様式の定着を背景に、身近な自然環境の悪化や生態系への影響、地球温暖化など、地域レベルから地球規模にわたる様々な環境問題が顕在化しており、豊かな自然環境を将来にわたり受け繋いでいくことが極めて重大な課題としてクローズアップされている。

今日の環境問題は、私たちの日常生活や事業活動に起因するものが多く、その解決に当たっては、私たち一人一人がこれまでのライフスタイルや社会経済活動を見直していくことが求められている。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災などを契機として、エネルギー問題への国民の関心が高まっている。

十勝は、我が国有数の農業地帯・酪農地帯・林業地帯であり、バイオマス資源が豊富に存在し事業化の可能性や優位性が高い地域である。

このため、長い日照時間など十勝の地域特性を生かし、これら潜在資源の利活用を促進する取組、産学官金連携などにより、新たな産業の創出を促進する取組、温暖化など地球規模での環境問題の解決に向け、住民が容易に参加することができる身近なエコ活動を促進することで、住民の主体的な環境保全活動を地域に定着させる取組及び二酸化炭素吸収源となる森林づくりを推進することに資する取組を支援していく。

〈優先選択事業〉

○ ハード系事業

次の十勝連携地域重点プロジェクトの推進に資する施設の整備事業

- 1 「食の拠点」とかちプロジェクト
- 2 「観光ネットワーク」とかちプロジェクト
- 3 「環境フロンティア」とかちプロジェクト

○ ソフト系事業

次の十勝連携地域重点プロジェクトの推進に資する施設の整備事業

① 「食の拠点」とかちプロジェクト

＜十勝の「食」の付加価値の向上＞

- ア 安全・安心な食の提供に向けた取組の促進
- イ 「十勝」のブランド力確立に向けた取組の促進
- ウ 付加価値を生み出す仕組みの構築の促進
- エ 食関連企業の立地促進

＜海外を視野に入れた販路の拡大＞

- オ 地域の農畜水産物の情報発信
- カ 十勝の農畜水産物の消費拡大に向けた取組
- キ 食をテーマにした誘客の取組

＜食料の生産・供給拠点の形成に向けた取組の促進＞

- ク 農畜水産物や加工食品などの安定的な生産・貯蔵・供給体制の強化

② 「観光ネットワーク」とかちプロジェクト

＜食材王国十勝の「食」を生かした観光資源のネットワーク化＞

- ア 十勝らしい「食」メニューの開発、磨き上げ
- イ 地産地消を進める飲食店や直売所の拡大と観光資源化

＜十勝の風土や美しい景観・人とのふれあいを大切にした観光の充実＞

- ウ 十勝の魅力あふれる観光メニューの連携
- エ ホスピタリティの向上に向けた取組

＜高速交通ネットワークを生かした観光客誘致＞

- オ 十勝を訪れ周遊するための情報発信
- カ 十勝の魅力あふれる観光のプロモーション
- キ 他圏域との広域観光の推進

③ 「環境フロンティア」とかちプロジェクト

＜十勝の豊富な潜在資源を生かした再生可能エネルギー等の利活用の促進＞

- ア 地域に豊富に存在するバイオマス資源の利活用とCO₂排出削減に向けた取組の促進
- イ 潜在資源を生かした再生可能エネルギーの普及促進

＜十勝流エコライフの定着・促進＞

- ウ もっとエコなとかちづくりの促進
- エ 未来を担う子どもたちへの環境教育の取組

＜多面的機能を有する森林の循環利用の促進＞

- オ 十勝の豊かな森林づくりの取組
- カ 森林環境学習などの推進

2 広域連携の促進

人々のニーズが多様化し、高度化している現在、個々の市町村で地域のすべてのニーズを満たすことは難しく、高度な機能の整備や質の高いサービスの提供、効果的な施設の整備、産業の振興など地域活性化への取組についても、これまで以上に地域間の連携、機能分担が求められることから、市町村等の枠組みを超えた広域的な取組を支援していく。

〈優先選択事業〉

○ ハード系事業

- ア 複数の市町村が共同で実施する事業(施設の共同設置等)
- イ 広域的な波及効果が見込まれる地域の基幹となる施設の整備事業

○ ソフト系事業

- ア 複数の市町村が共同で実施する事業
- イ 広域的な波及効果のある事業

3 多様な主体の連携の促進

総合振興局長が適当と認める者が実施する事業にあっては、市町村が関与（財政支援又は人的支援等）をしている事業を優先的に支援する。

4 道から市町村への権限移譲の促進

「地域主権型社会」の実現を目指し、市町村において道からの権限移譲を受ける取組に資する事業を優先的に支援する。